

佐多岬の藻場造成活動の取組み

大隅地域振興局林務水産課水産係

【背景・目的】

南大隅町佐多岬の間泊地先では、かつては藻場が繁茂していたが近年は磯焼けや砂泥の堆積等により藻場が激減してきた。このため佐多岬藻場保全活動組織を中心にウニ駆除活動、母藻のブロック投入、地元子供たちへの水産教室や海岸清掃を実施するなど藻場造成に向けて幅広い活動に取り組んだ。

【普及の内容・特徴】

- 1 ウニ駆除の実施**
平成 26 年 6 月から 9 月にかけて月 1 回程度ウニ駆除を実施した。
- 2 藻場ブロック投入後の追跡調査**
平成 26 年 1 月に間泊地先に、南方系ホンダワラを生長させた藻場ブロック 40 基を投入しており、周辺の追跡調査を同年 6 月に実施した。
- 3 子供たちへの水産教室と海岸清掃**
平成 26 年 7 月 12 日に南大隅町間泊公民館で神山小学校 14 名を対象に水産教室を開催し、漁業者が捌いた魚料理を提供した。同時に干潮時を利用して間泊港付近の海岸清掃を行った。
- 4 ヒジキ母藻投入**
平成 27 年 3 月 22 日に垂水市漁協からヒジキ母藻 300kg を間泊港内に搬送し、モジ網内に收容した。また、クレモナロープ 10 m に母藻を挟み込み、試験的に間泊港内で大潮干潮時に干出する場所に展開した。

【成果・活用】

- 1 ウニ駆除の実施**
ウニ駆除前は、50cm × 50cm の範囲内に 8 ~ 10 個のウニを確認したが、ウニ駆除を定期的実施したことにより同範囲内のウニが 1 ~ 2 個まで減少させることができた。
- 2 藻場ブロック投入後の追跡調査**
南方系ホンダワラが付いたブロック投入後の追跡調査では、これまで藻場が見られなかった岩礁に南方系ホンダワラの小さな群生が確認され、藻場ブロック投入による効果が表れたものと考えられた。
- 3 子供たちへの水産教室と海岸清掃**
神山小学生へ水産教室を開き、地元の水産業や活動組織が行っている藻場造成活動を紹介した。また、漁業者が捌いた魚料理も食べてもらい、子供たちへの魚食普及活動も行った。同時に海岸清掃を実施し、海の浄化の大切さを子供たちに教えることができた。
- 4 ヒジキ母藻投入**
10 m ロープに挟み込んだヒジキは干出する場所にもかかわらず 1 週間程度で食害に遭ったため、今後は囲いをするなど何らかの対策が必要と考えられた。一方、母藻として投入したヒジキは、胞子を出す 5 月頃まで十分管理し、その後も長期にわたり追跡調査を実施する必要がある。

【その他】

当組織による藻場保全活動は始まったばかりで各活動による大きな効果はまだ表れていないが、かつての藻場を再生させるためにも上記のような地道な活動を継続することが重要と思われる。



図1 ウニ駆除前

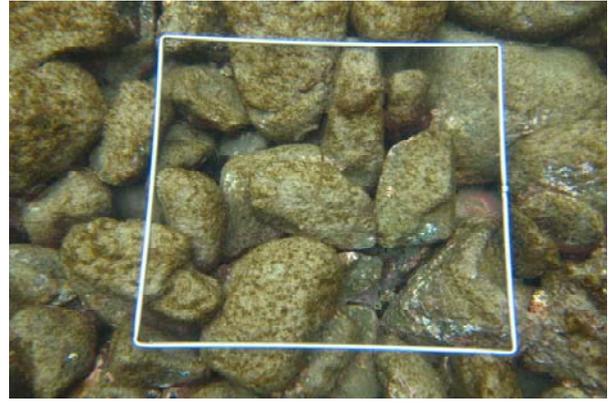


図2 ウニ駆除後



図3 南方系ホンダラを確認



図4 南方系ホンダワラ



図5 神山小学生への水産教室



図6 小学生との海岸清掃



図7 収容したヒジキ母藻



図8 浅場に展開したヒジキ